



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月5日

上場会社名 株式会社 エコミック

上場取引所 東 札

コード番号 3802 URL <https://www.ecomic.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 熊谷 浩二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 荒谷 努

TEL 011-206-1103

四半期報告書提出予定日 2022年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	339	33.0	45		43		32	
2022年3月期第1四半期	255	1.2	35		34		20	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 17百万円 ( %) 2022年3月期第1四半期 18百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	8.57	
2022年3月期第1四半期	5.53	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	1,479	1,102	74.5	290.32
2022年3月期	1,346	1,143	84.9	301.03

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 1,102百万円 2022年3月期 1,143百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		6.00	6.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	682	42.7	173		174		106		28.11
通期	2,286	30.2	200	8.0	201	7.3	139	22.7	36.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は事業の性質上、業績は下半期に偏重する傾向にあります。

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	3,797,600 株	2022年3月期	3,797,600 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	60 株	2022年3月期	60 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	3,797,540 株	2022年3月期1Q	3,773,193 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されます。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中で原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある状況となっております。

当業界におきましては、この様な経済の先行きが不透明な中、労働環境の変化やSDGsへの取組み等を背景に、企業の効率化、省力化への動向が続き、事業再構築やBCP(事業継続計画)の手段としてのアウトソーシングニーズは引き続き高い状況でありました。

そこで当社グループは、経営方針にある「お客様への価値あるサービスの提供」として、顧客企業に対し給与計算に係る人材、時間等の経営資源をより価値の高い本来業務へ転換していただくことによるコストの削減、顧客企業の生産性向上の観点から、アウトソーシングサービスの提案を行い、あらゆる企業から管理部門のルーティンワークを無くすべく、「バックヤード業務のソリューションプロバイダー」として付加価値の高いサービスの提供を行ってまいりました。また、2022年4月30日には株式会社ビズライト・テクノロジーを連結子会社とし、DXやHRテックを用いた生産性向上ニーズへの対応を強化してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績については、売上高は339,110千円(前年同四半期比33.0%増)、営業損失は45,814千円(前年同四半期は営業損失35,682千円)、経常損失は43,098千円(前年同四半期は経常損失34,850千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は32,526千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失20,874千円)となりました。

当社グループはこれまでペイロール事業の単一セグメントでありましたが、株式会社ビズライト・テクノロジーを連結子会社としたことに伴い、当第1四半期連結累計期間より、「BPO事業」と「ソフトウェア・ハードウェア開発事業」にセグメントを区分することといたしました。各セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### (BPO事業)

BPO事業については、前連結会計年度に引き続き既存顧客との関係強化及び積極的な営業活動に取り組んでまいりました。前年同四半期に比べ、給与計算処理人数及び新規顧客の導入関連売上が増加し、BPO事業の売上高は315,710千円(前年同四半期比23.8%増)、営業損失は40,491千円(前年同四半期比は営業損失35,862千円)となりました。

#### (ソフトウェア・ハードウェア開発事業)

ソフトウェア・ハードウェア開発事業については、株式会社ビズライト・テクノロジーの主力事業としてAI及びIoTに関連するハードウェア製品、ファームウェア開発、そして受託ソフトウェア開発等を行っており、ソフトウェア・ハードウェア開発事業の売上高は41,301千円、営業利益は3,122千円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,018,871千円となり、前連結会計年度末に比べ46,210千円増加いたしました。これは主に売掛金が55,147千円増加したことによるものであります。固定資産は460,222千円となり、前連結会計年度末に比べ86,261千円増加いたしました。これは主にのれんが75,724千円及び繰延税金資産が21,935千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は1,479,094千円となり、前連結会計年度末に比べ86,261千円増加いたしました。

#### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は215,974千円となり、前連結会計年度末に比べ12,721千円増加いたしました。これは主にその他の未払法人税等が37,090千円減少したこと及びその他の流動負債が32,193千円減少した一方、賞与引当金が23,888千円及び1年内返済予定の長期借入金が36,449千円増加したことによるものであります。固定負債は160,627千円となり、前連結会計年度末に比べ173,139千円増加いたしました。これは主に長期借入金157,671千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は376,601千円となり、前連結会計年度末に比べ173,139千円増加いたしました。

#### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,102,492千円となり、前連結会計年度末に比べ40,667千円減少いたしました。これは主に、利益剰余金が55,311千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は74.5%(前連結会計年度末は84.9%)になりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月10日に発表いたしました2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はございません。

なお、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、新型コロナウイルスの当社グループ

に与える影響につきましては、当社グループの主たる事業である給与計算業務は、原則毎月継続的に顧客企業との取引が発生することとなっており、現時点では本事象に係る取引停止等の事象は発生しておりません。更に当社及び中華人民共和国山東省青島市の連結子会社栄光信息技术(青島)有限公司、株式会社ビズライト・テクノロジーとともに業務運営に支障はきたしておりません。しかし、今後感染が広がることに伴い顧客企業からの情報提供が滞った場合や当社グループ内で感染が広がった際には業務運営に支障をきたす恐れがあります。その際には、状況及び業績に与える影響について速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	824,986	793,192
売掛金	111,342	166,489
製品	—	4,164
仕掛品	—	3,333
原材料	—	3,141
その他	36,354	48,583
貸倒引当金	△22	△34
流動資産合計	972,661	1,018,871
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	67,279	66,508
その他(純額)	12,342	11,160
有形固定資産合計	79,621	77,669
無形固定資産		
ソフトウェア	221,604	212,233
のれん	—	75,724
その他	—	2,727
無形固定資産合計	221,604	290,685
投資その他の資産		
繰延税金資産	4,532	26,468
敷金及び保証金	42,529	29,461
その他	25,672	35,938
投資その他の資産合計	72,734	91,867
固定資産合計	373,961	460,222
資産合計	1,346,622	1,479,094
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	17,521	23,999
1年内償還予定の社債	—	14,000
1年内返済予定の長期借入金	—	36,449
未払金	19,034	20,224
未払法人税等	48,474	11,383
賞与引当金	—	23,888
その他	118,223	86,030
流動負債合計	203,253	215,974
固定負債		
長期借入金	—	157,671
繰延税金負債	209	221
その他	—	2,734
固定負債合計	209	160,627
負債合計	203,462	376,601

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	360,271	360,271
資本剰余金	195,247	195,247
利益剰余金	555,550	500,238
自己株式	△36	△36
株主資本合計	1,111,032	1,055,721
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	32,127	46,771
その他の包括利益累計額合計	32,127	46,771
純資産合計	1,143,160	1,102,492
負債純資産合計	1,346,622	1,479,094

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	255,061	339,110
売上原価	204,654	256,797
売上総利益	50,407	82,312
販売費及び一般管理費	86,089	128,127
営業損失(△)	△35,682	△45,814
営業外収益		
受取利息	125	187
助成金収入	444	1,523
為替差益	-	650
その他	420	623
営業外収益合計	990	2,985
営業外費用		
支払利息	-	236
その他	159	33
営業外費用合計	159	269
経常損失(△)	△34,850	△43,098
税金等調整前四半期純損失(△)	△34,850	△43,098
法人税等	△13,976	△10,572
四半期純損失(△)	△20,874	△32,526
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△20,874	△32,526



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△20,874	△32,526
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2,598	14,644
その他の包括利益合計	2,598	14,644
四半期包括利益	△18,276	△17,882
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△18,276	△17,882

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。